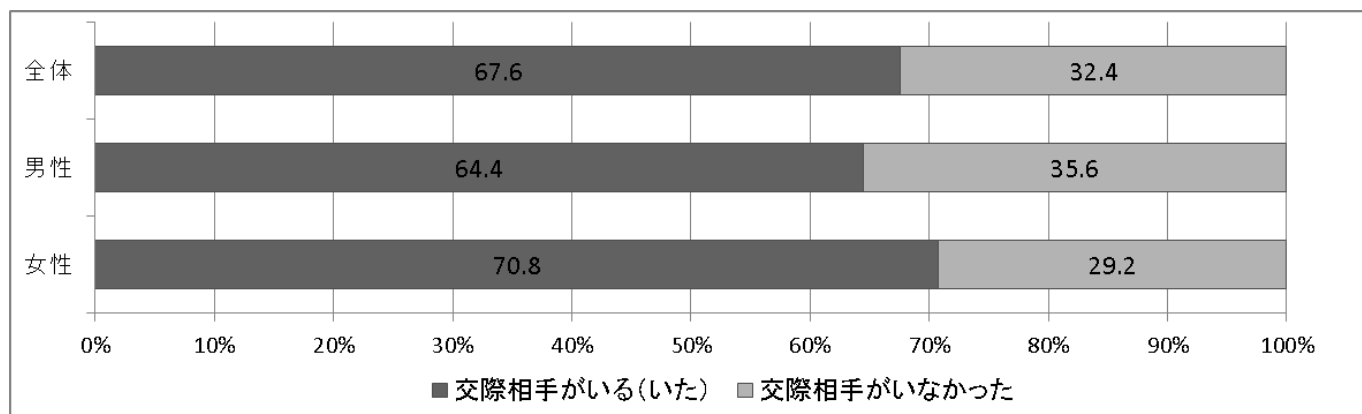


V 交際相手からのDVに関する認識と被害経験、被害を受けたときの対応

(問) これまでに交際相手がありましたか。



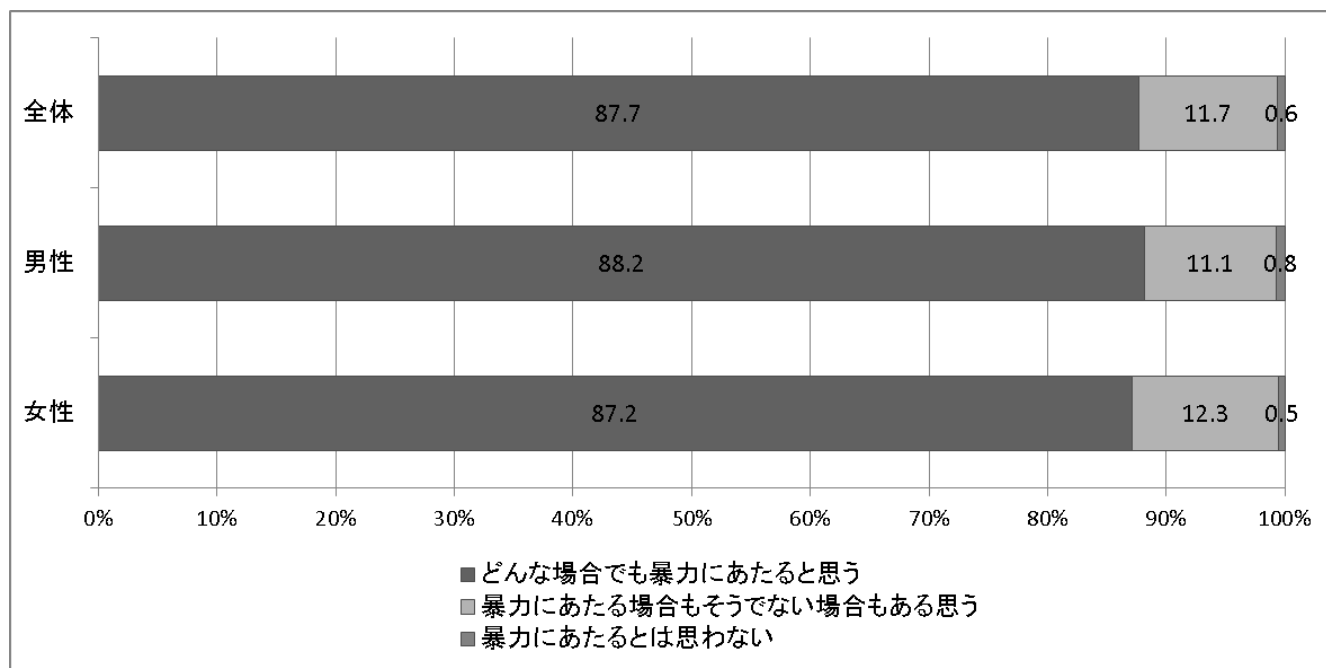
【どのような行為を暴力だと思うか】

「どんな場合でも暴力に当たると思う」が8割以上のものは、「手でぶったり、足で蹴る」「物を投げつける」「人格を否定するような暴言など相手の嫌がることを言い続ける」「嫌がっているのに性的な行為を強要する」「避妊に協力しないし、責任もとらない」「携帯電話のカメラで裸などの写真を撮られ、それを使って嫌な思いをさせられる」「携帯電話を故意に壊されたり、データを破壊される」で、7割以上のものは、「殴るふりをして、おどす」「見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『甲斐性なし』などと言う」「大声でどなる」となっている。5割未満のものはなかった。

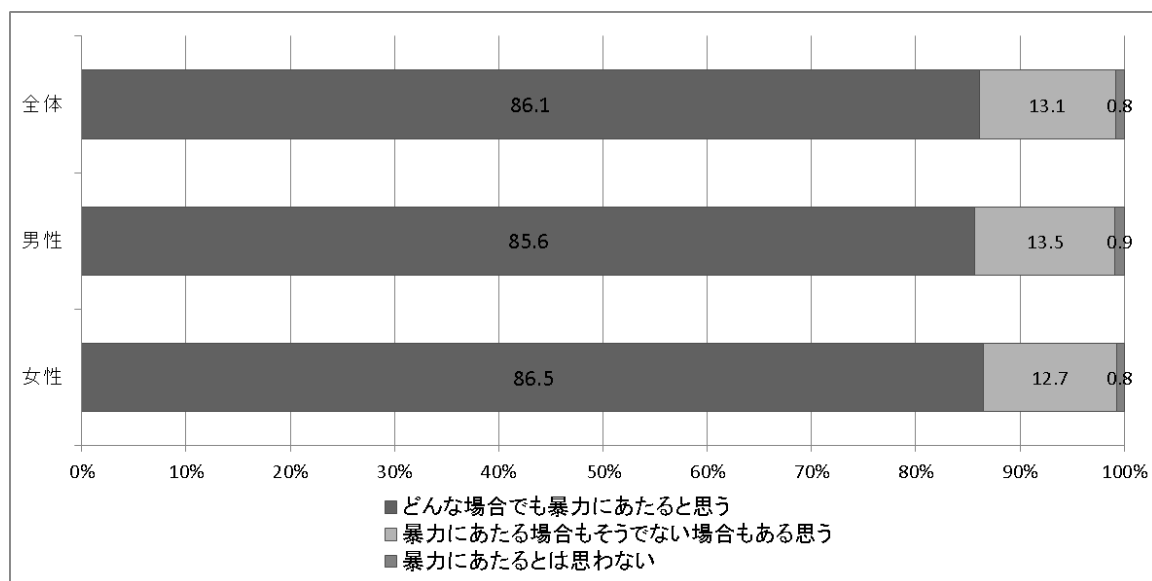
(問) 次のことが交際相手間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。

※前回調査との比較は、同じ選択肢がある場合のみ行っている。

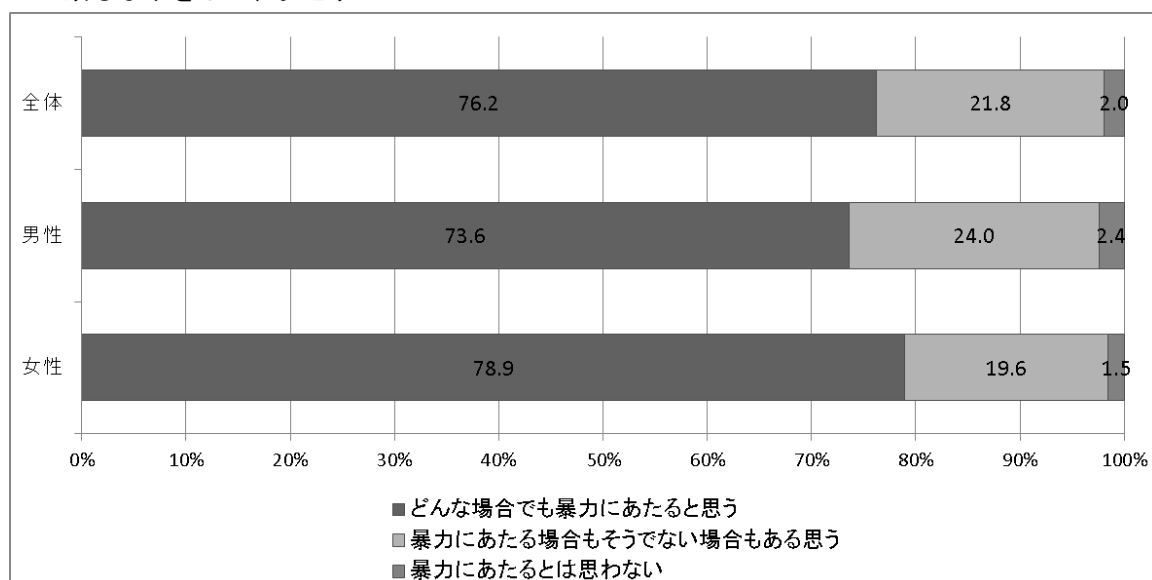
A 手でぶったり、足で蹴る



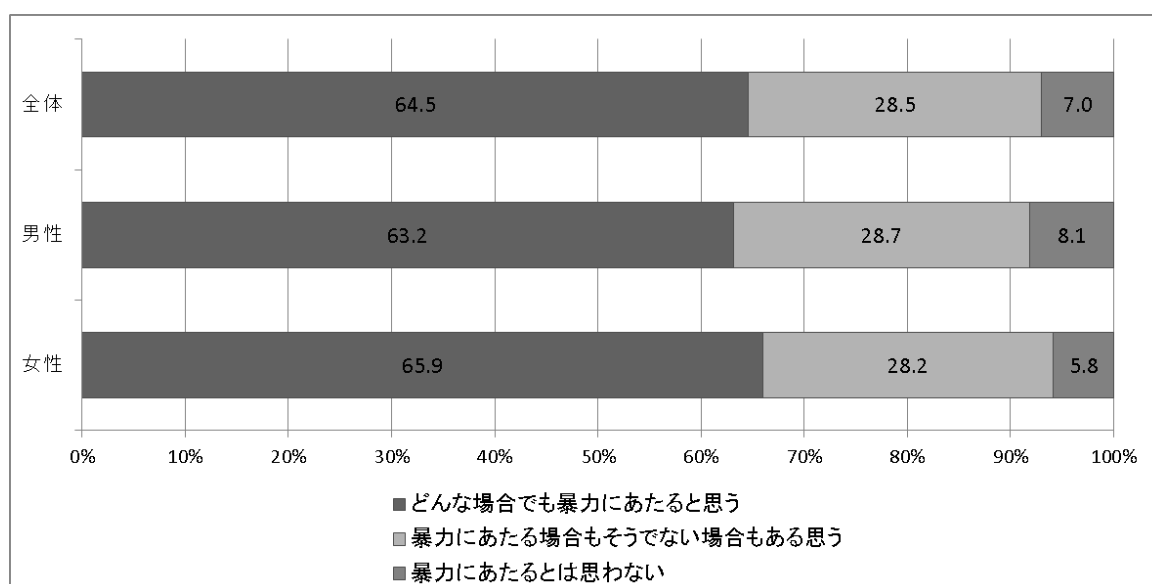
B 物を投げつける



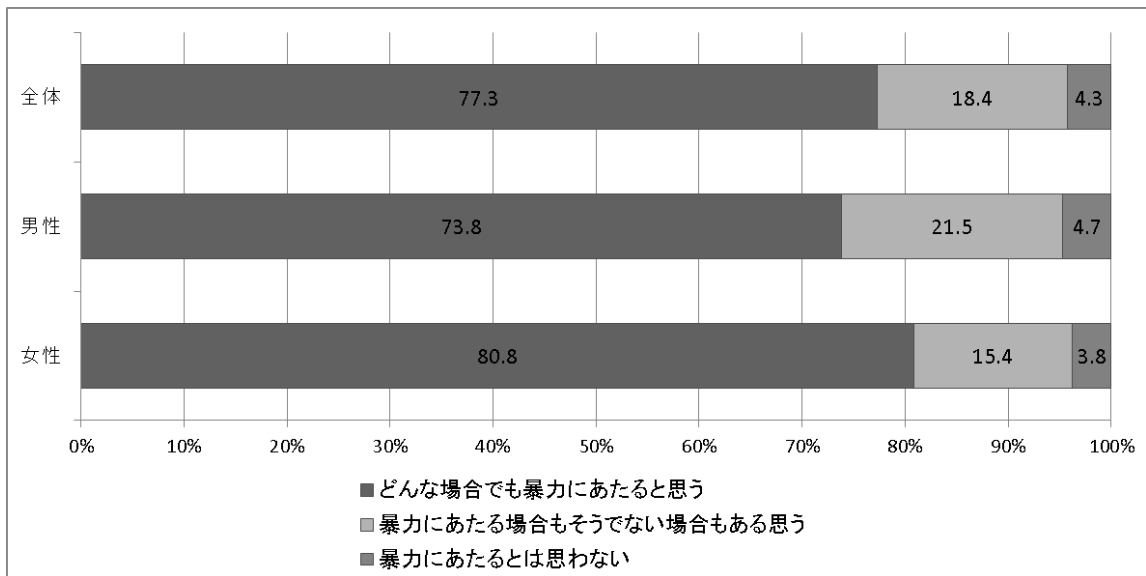
C 殴るふりをして、おどす



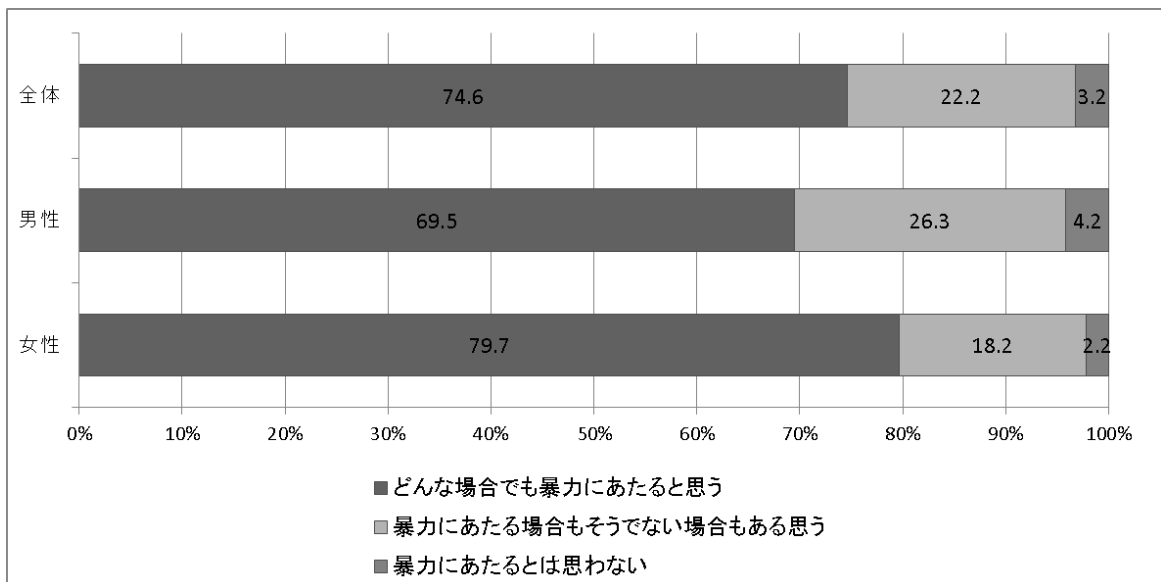
D 長期間無視し続ける



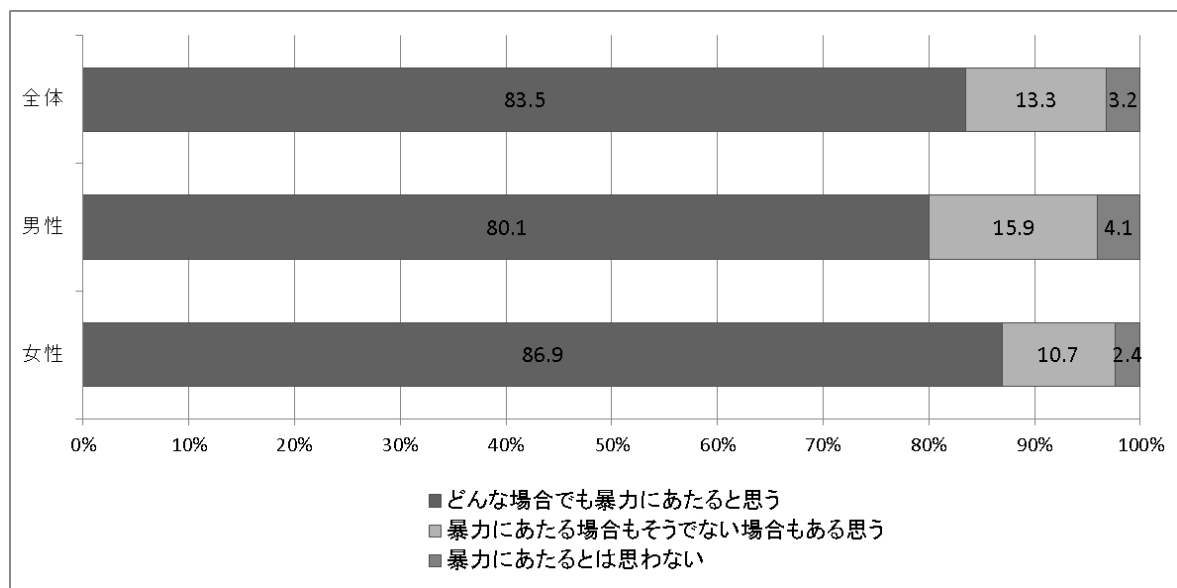
E 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「甲斐性なし」などと言う



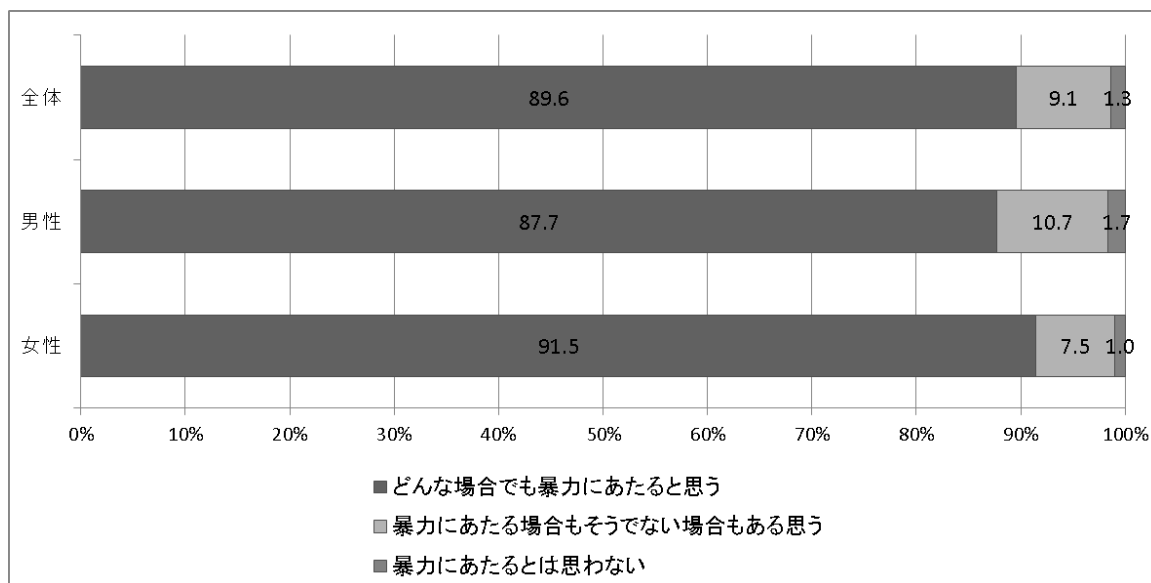
F 大声でどなる



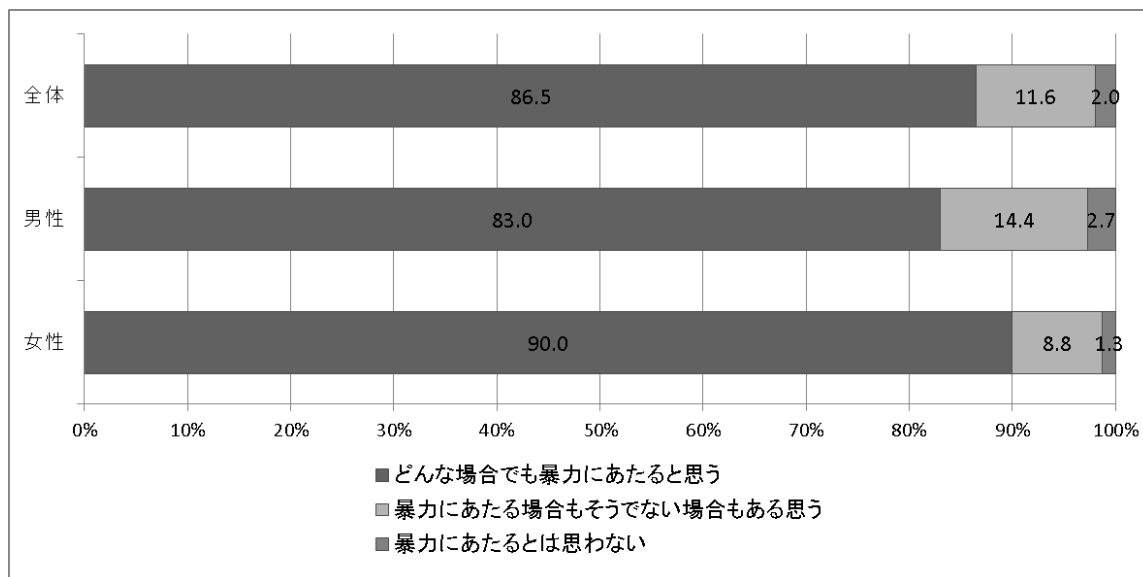
G 人格を否定するような暴言など相手の嫌がることを言い続ける



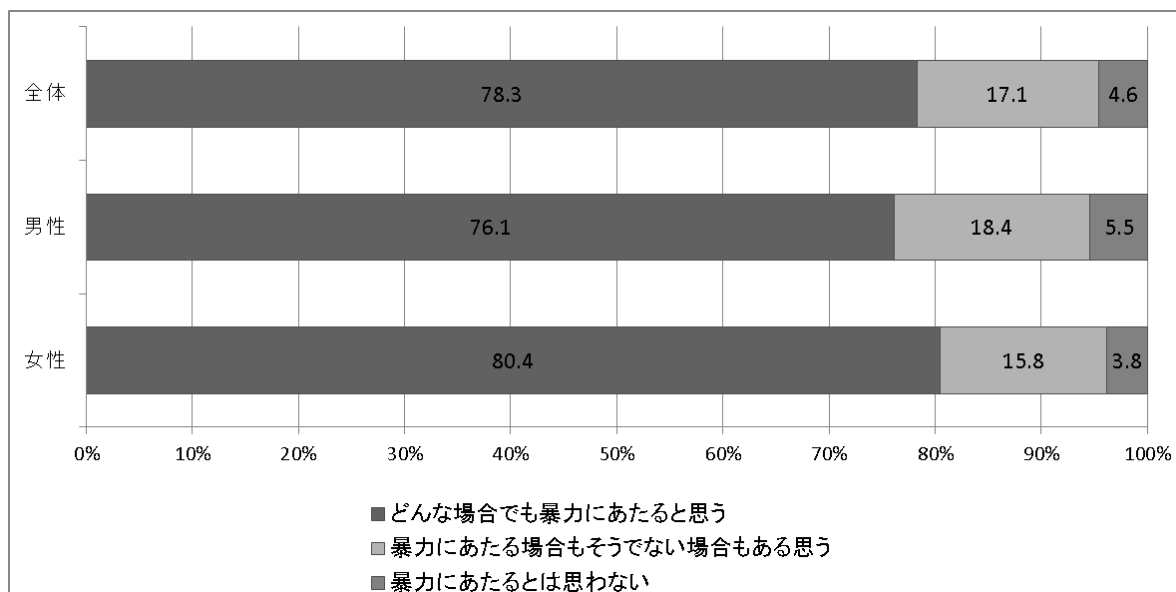
H 嫌がっているのに性的な行為を強要する



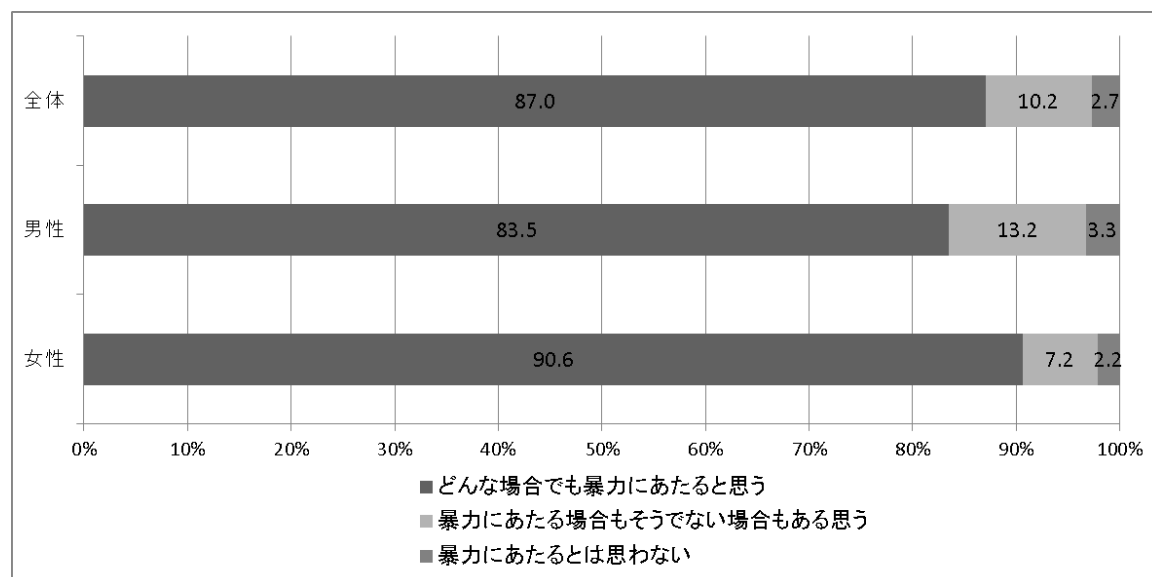
I 避妊に協力しないし、責任もとらない



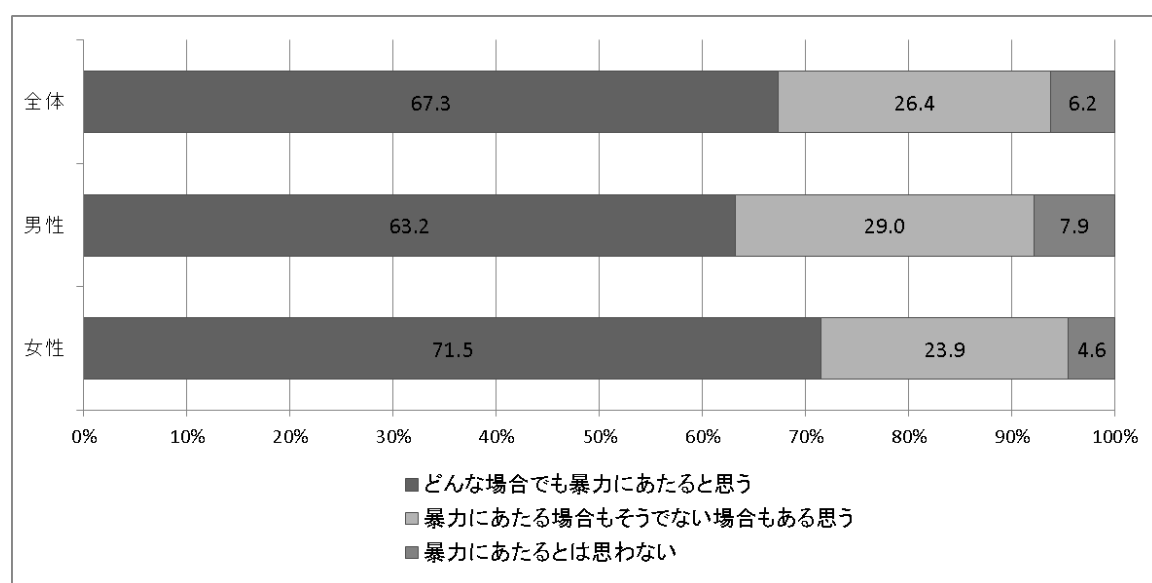
J 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



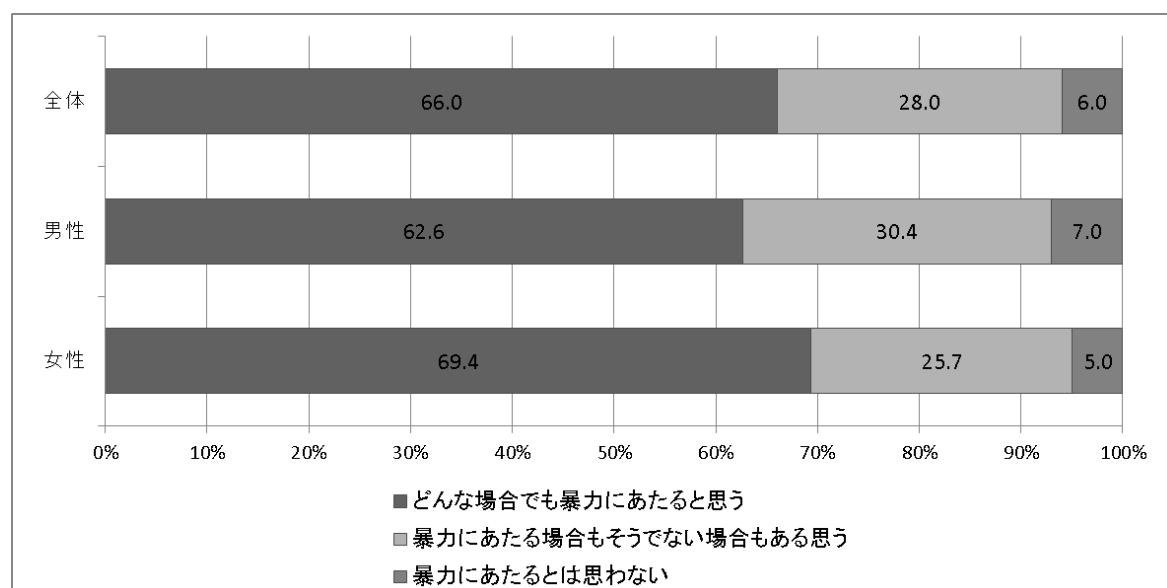
K 携帯電話のカメラで裸などの写真を撮られ、それを使って嫌な思いをさせられる



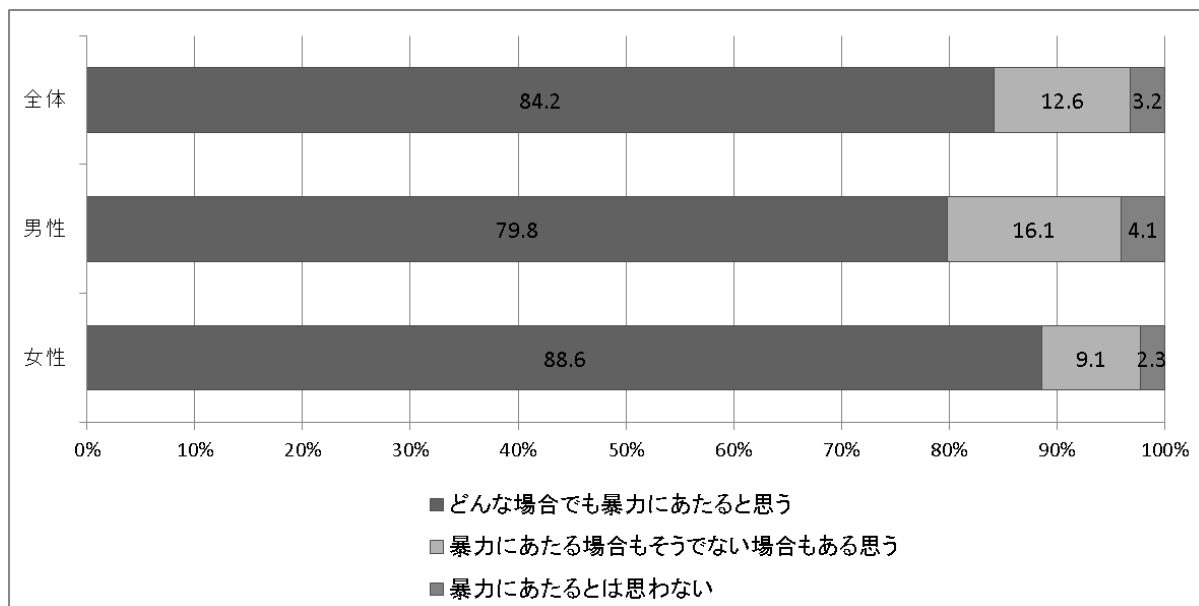
L 金の使い道を細かくチェックしたり、生活費を渡さない



M 行動や交友関係、電話、メールを細かく監視する



N 携帯電話を故意に壊されたり、データを破壊される

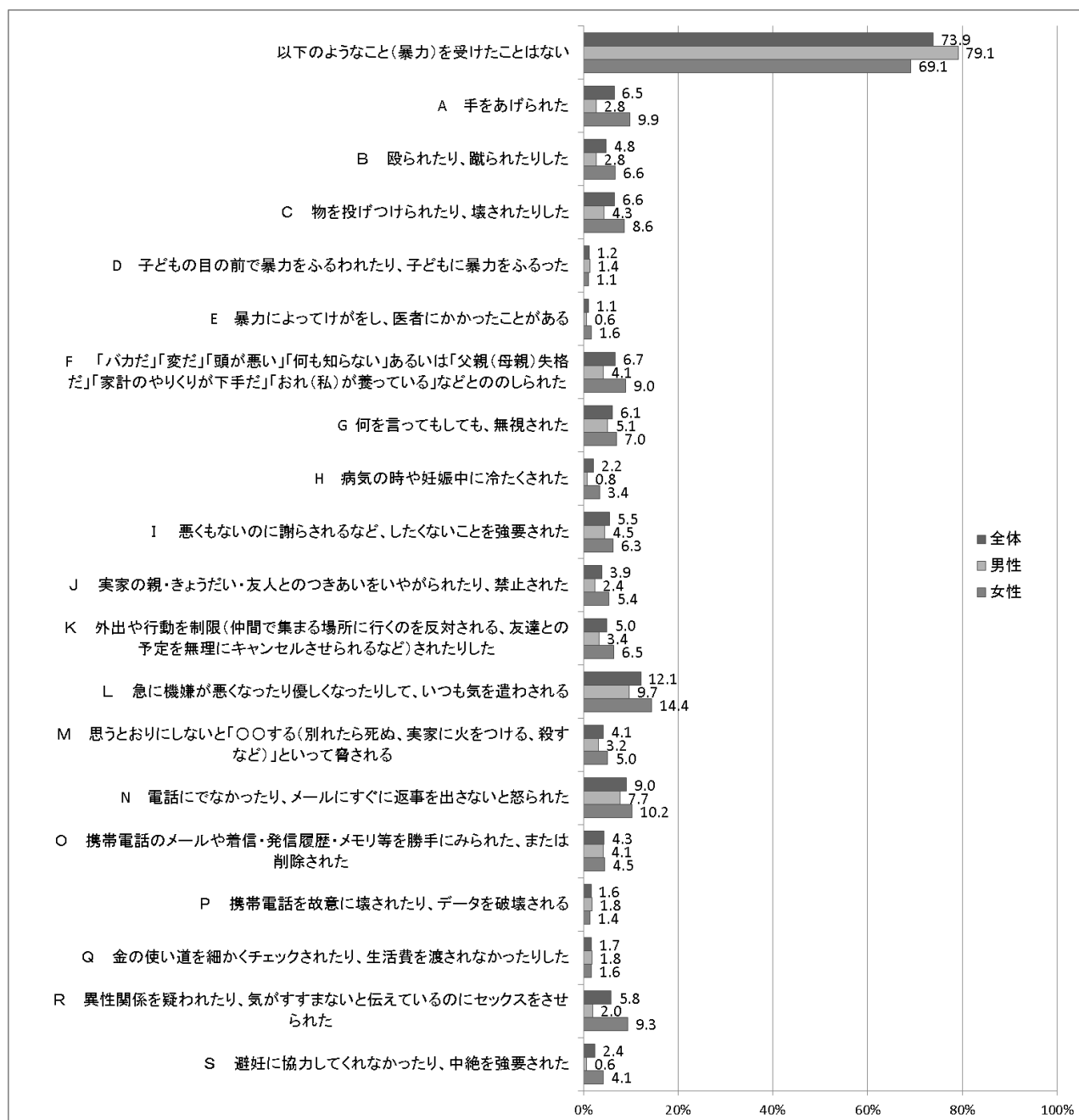


【被害経験の有無】

暴力を受けたことがある人（26.1%）のうち、「急に機嫌が悪くなったり優しくなったりして、いつも気を遣わされる」12.1%、「電話にでなかったり、メールにすぐに返事を出さないと怒られた」9.0%、「『バカだ』『変だ』『頭が悪い』『何も知らない』あるいは『父親（母親）失格だ』『家計のやりくりが下手だ』『おれ（私）が養っている』などとののしられた」6.7%の順に高く、精神的な被害である。

（問）あなたはこれまでに交際相手から次のようなことをされたことがありますか。

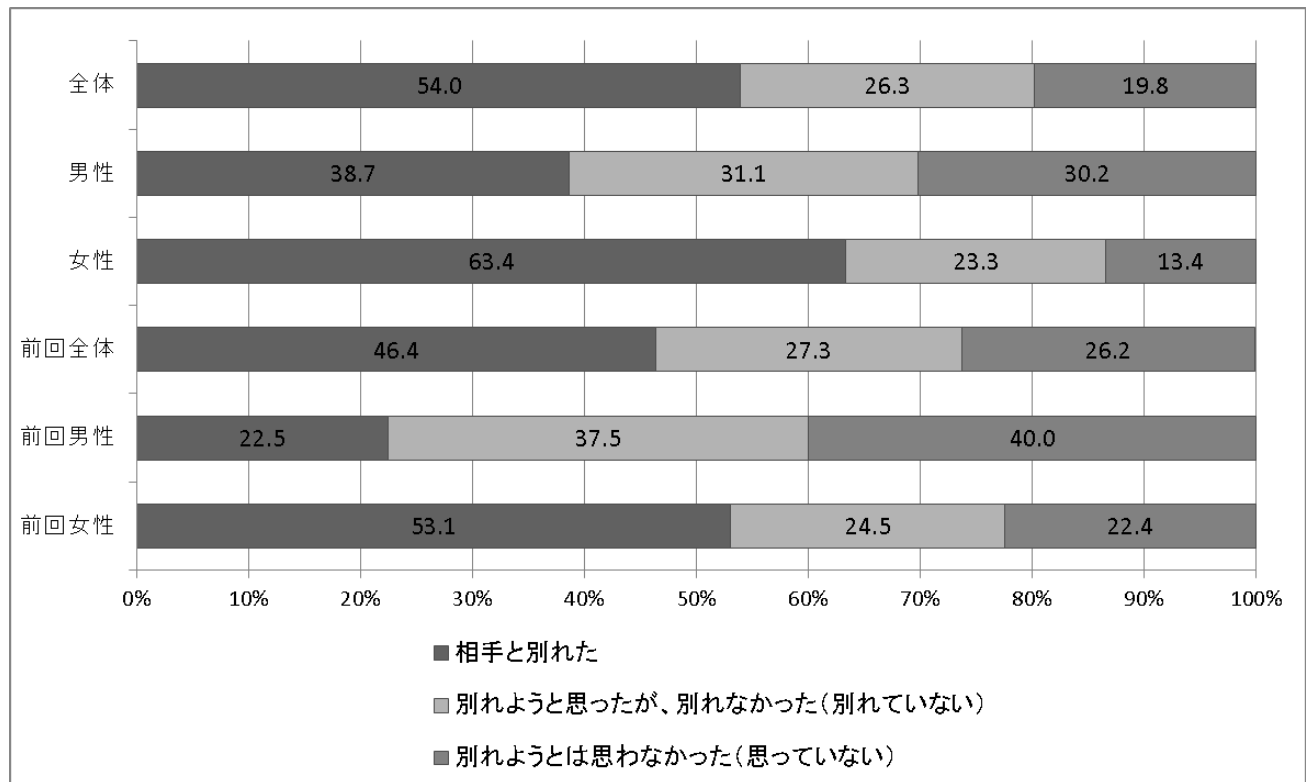
- A～E なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴力を受けた
- F～P 人格を否定するような暴言や、自分もしくは家族に加害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫、何を言っても無視するなどの精神的な嫌がらせを受けた
- Q 金の使い道を細かくチェックされたり、生活費を渡されなかったりするなど経済的な圧迫を受けた
- R～S 異性関係を疑われたり、気がすすまないと伝えているのにセックスをさせられる、避妊に協力してくれないなど性的な強要を受けた



【暴力を受けたとき、どうしたか】

「相手と別れた」が54.0%で最も高い。男女別では、女性は「相手と別れた」63.4%がで、男性は「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった（別れていない）」「別れたい（別れよう）と思わなかった」が61.3%であり、「相手と別れた」は女性より低い。前回に比べその差は小さい。

（問）そのような行為を受けたとき、どうしましたか。（直近のケース1つ）

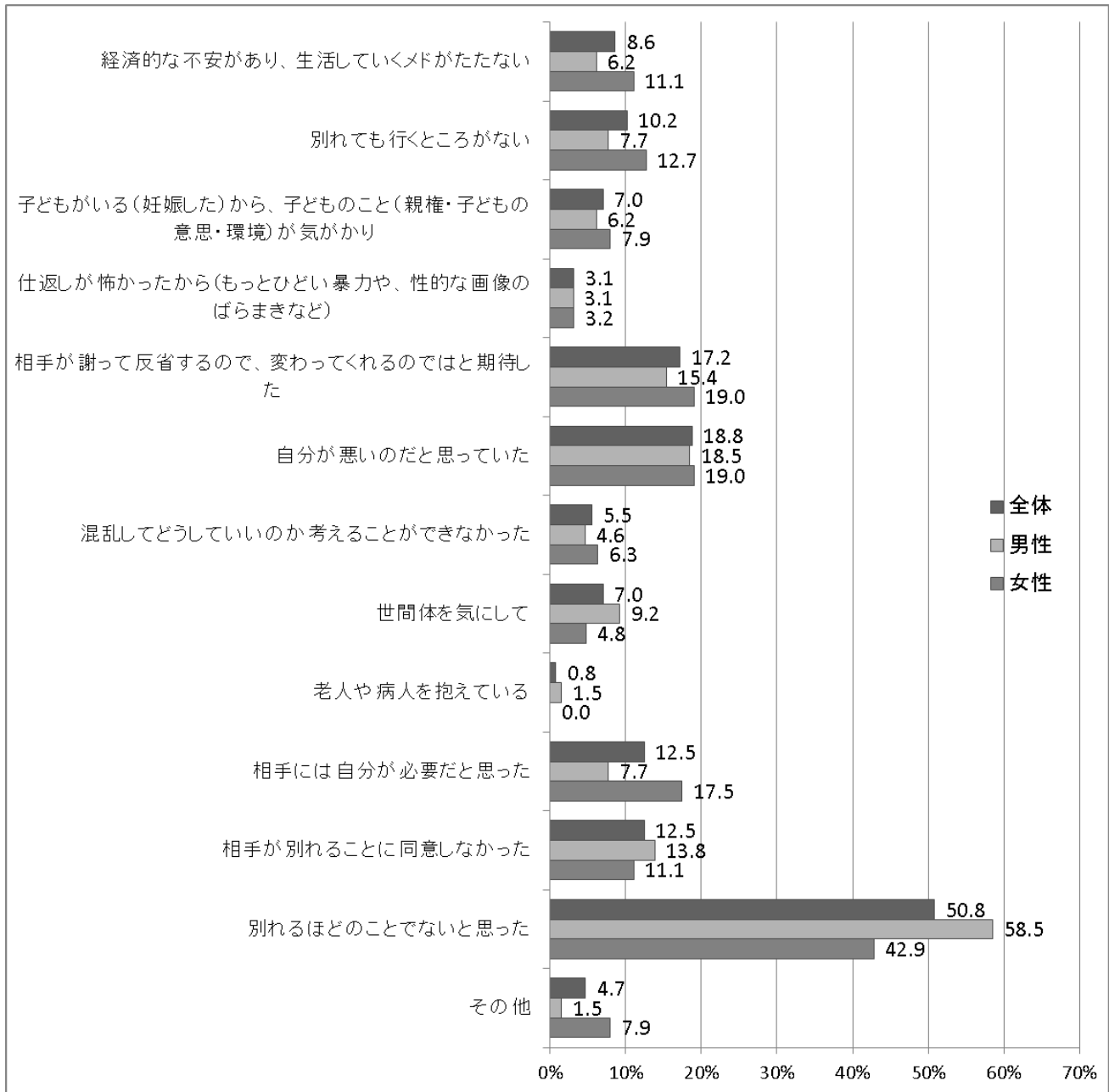


【相手と別れなかった理由】

「別れるほどのことではないと思った」が最も高く 50.8%、次いで「自分が悪いのだと思っていた」18.8%、「相手が謝って反省するので、変わってくれるのではと期待した」17.2%、「相手には自分が必要だと思った」「相手が別れることに同意しなかった」12.5%の順に高い。

男女別では、男性の方が5ポイント以上高いのは「別れるほどのことではないと思った」で、女性の方が5ポイント以上高いのは「別れても行くところがない」「相手には自分が必要だと思った」となっている。

(問) 交際相手と別れなかった理由は何ですか。(3つまで)

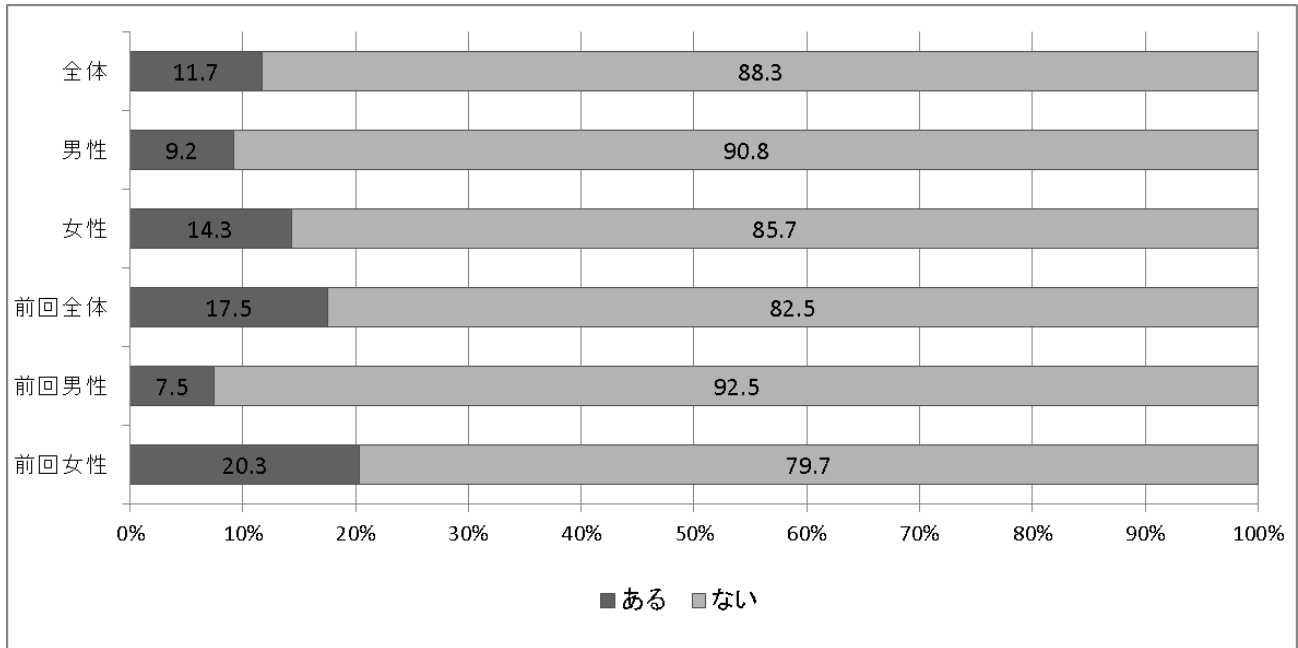


【被害の程度、医師に相談したか】

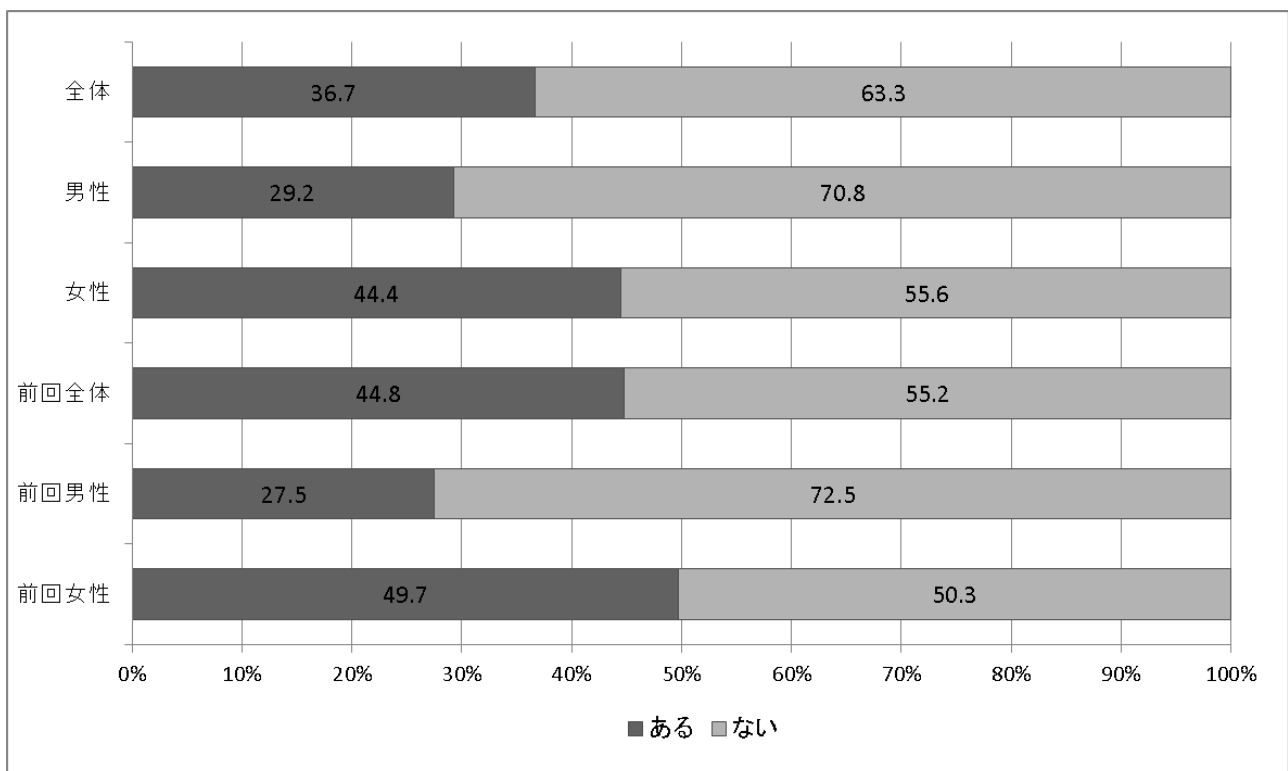
デートDVにより「命の危険を感じた」が11.7%（男性9.2%、女性14.3%）、怪我をしたり、精神的不調をきたしたことが「ある」が36.7%（男性29.2%、女性44.4%）で、ともに女性の方がかなり高い。

また、怪我や精神的不調で医師等の「診察等を受けたことがあり、行為について打ち明けたり相談をした」は14.9%であり大きな男女差はないが、「診察等を受けたことがあるが、行為について打ち明けたり相談はしなかった」は25.5%で、その割合は女性の方が高い。

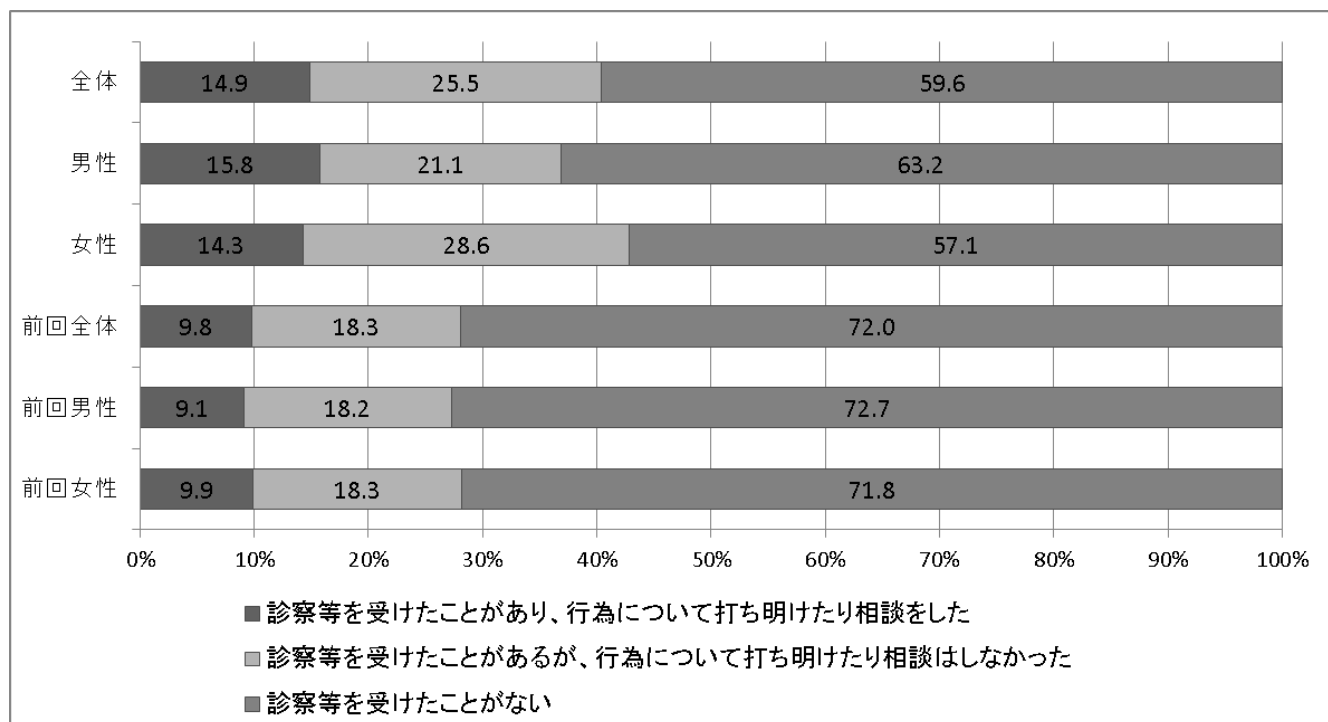
（問） これまでに配偶者からの行為によって命の危険を感じたことがありますか。



（問） これまでに配偶者からの行為によって怪我、精神的不調をきたしたことはありますか。



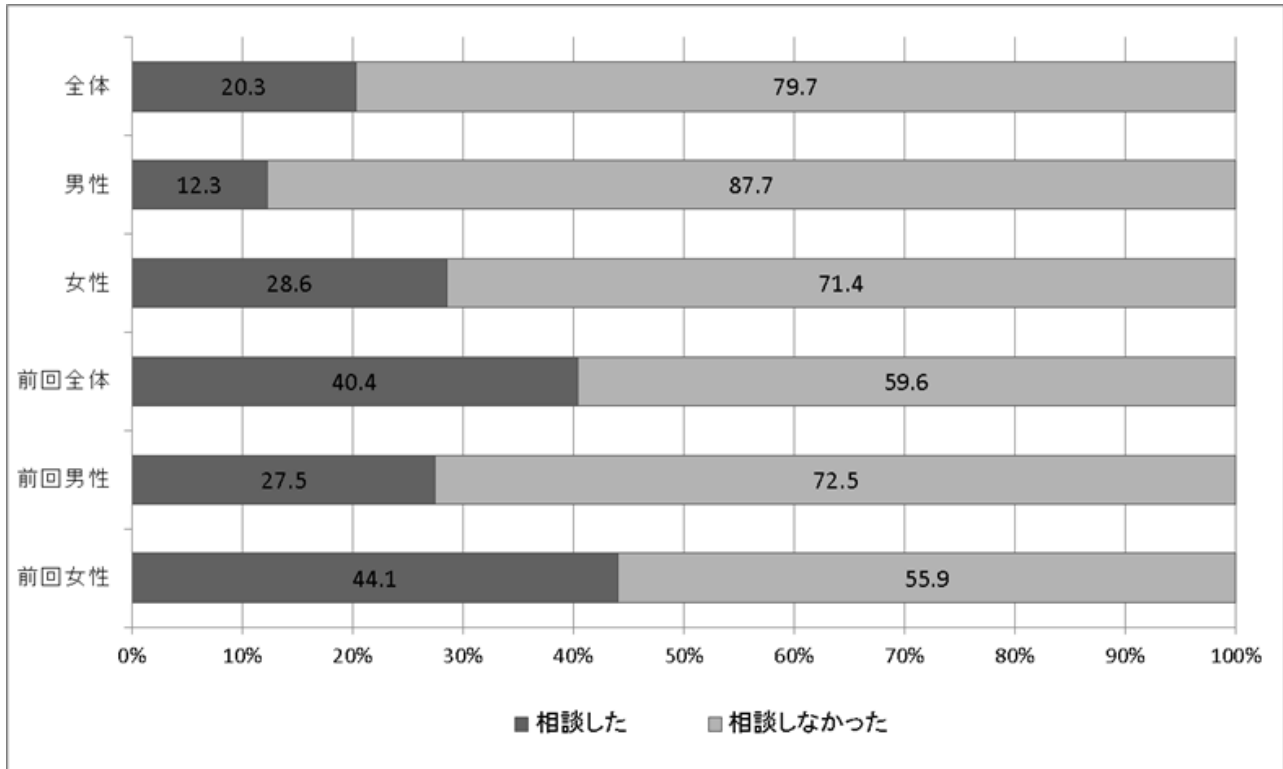
(問) その怪我や精神的不調について、医師の診察等を受けたことがありますか。またその際に、交際相手からの行為について医師等に打ち明けたり、相談したりしましたか。



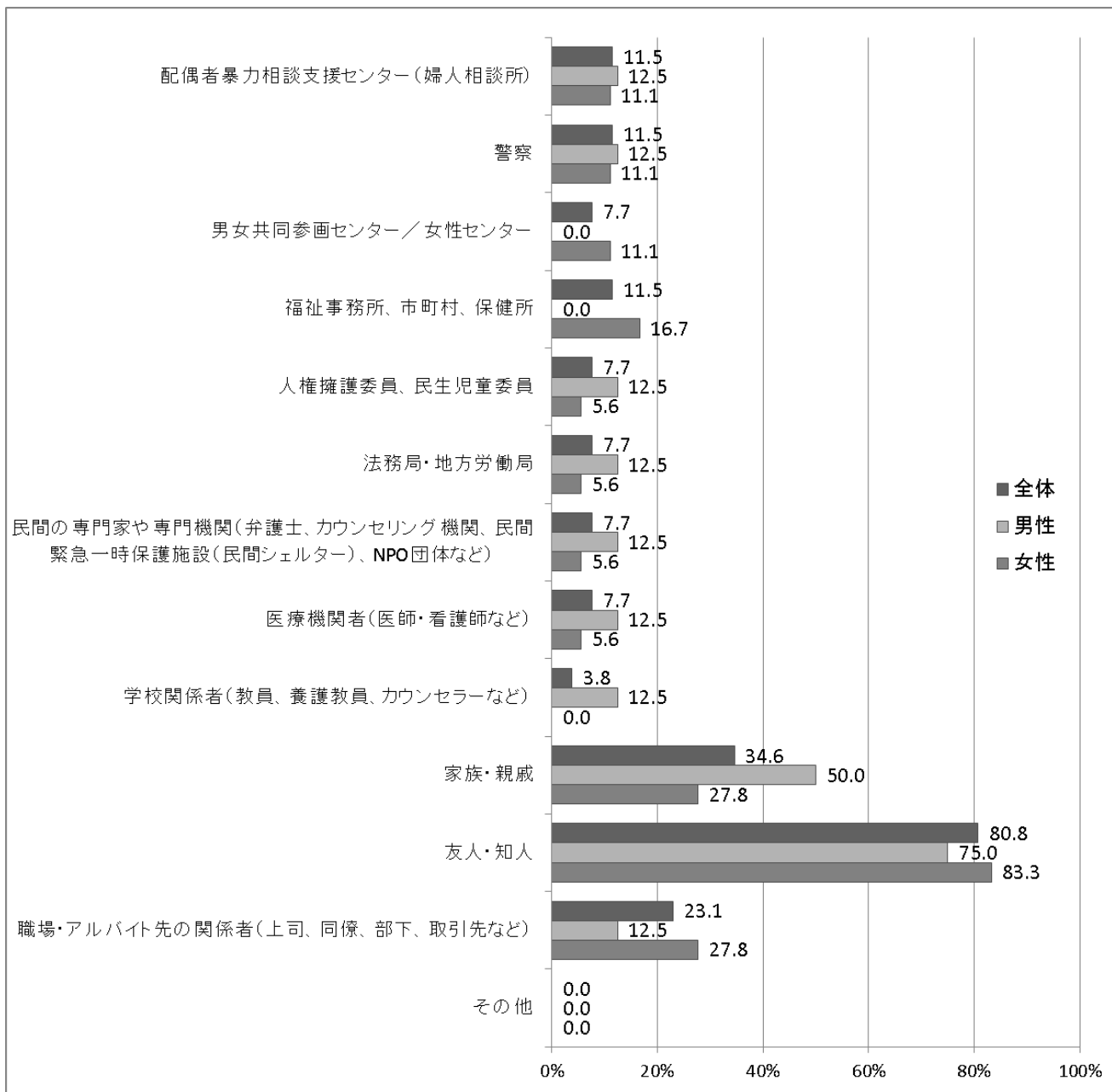
【被害を受けたときに相談したか、相談先】

被害を受けたときの相談先については、「相談しなかった」が79.7%で、男性は女性よりも16.3ポイント高い。相談した場合の相談先は、「知人・友人」80.0%で、「家族・親戚」34.6%と高い。

(問) これまでに交際相手から受けた暴力について、誰かに打ち明け、相談しましたか。



●どこ（だれ）かに相談した場合の相談先（「どこ（だれ）にも相談しなかった」を除く）（いくつでも）



【相談しなかった理由】

「相談するほどのことではないと思った」が最も高く 49.0%、次いで「相談してもむだだと思った」36.3%、「どこ（だれ）に相談してよいかわからなかった」25.5%、「恥ずかしくてだれにも言えなかった」21.6%の順で高い。

（問）どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（いくつでも）

